

日本原子力学会 福島特別プロジェクト活動報告

コミュニケーション活動について

2013年1月20日

日本原子力学会
福島特別プロジェクト

大場 恭子



Future From Fukushima.



福島環境再生事務所

除染情報プラザ

福島県

日本原子力学会
福島特別プロジェクト

専門家集団として、正確な情報を
独立の立場で提言、発信

地域住民

支援

支援

「除染の推進に向けたフォーラム」

クリーンアップ

- 仮置き場に対する理解促進
- 除染技術レビュー

放射線影響

- 放出核種に関する説明
- 除染基準に対する理解促進

コミュニケーション

- 地域住民との情報連携促進
- 効果的な情報発信の方法開発

福島特別プロジェクトの位置づけ

「福島特別プロジェクト」の主な業務

現地に密着した除染等の技術支援を中心とした活動を行います。併せて、地域住民の皆様に関心があると考えられるプラントの状況に関する情報を**分かり易く説明するための活動**も行います。

※今後、福島県や地域住民の方々のニーズと具体的な活動の進展を踏まえ、柔軟に活動内容等を見直しつつ、活動範囲を広げていくこととしています。

① 住民の方々への情報提供

放射線のモニタリング結果の公表や除染技術に関する評価を行うとともに、放射線の健康影響も含め、住民の方々に分かりやすい解説・報告を行います。住民の皆様ニーズに応え、説明用資料などをとりまとめます。「除染推進に向けたフォーラム」などの対話集会を共同開催します。

② シンポジウム開催

本プロジェクトの活動報告また情報発信の場として、環境省・福島県・関係市町村・関係機関と協力してシンポジウムを開催し、正確な事実・知識の普及および理解の促進を図ります。

③ 除染促進活動

環境省・福島県の「除染情報プラザ」を積極的に活用した除染促進活動を支援します。

④ 除染講習会アドバイザー業務

除染講習会で用いるテキストの作成や、除染ボランティアおよび指導員の教育を行います。

⑤ 環境修復/中長期対策への提言

東京電力福島第一原子力発電所の事故による発電所内や周辺の修復に関する技術課題の分析・評価を行い、必要に応じて環境省や福島県が行う環境修復及び政府・東京電力が進める中長期対策に対して提言を行います。また、引き続き、関係機関の現地活動を支援いたします。

具体的な施策

クリーンアップ

- モデル実証試験（南相馬における稲作試験）
- 除染技術レビュー（JAEA除染モデル、除染実証、福島県）

放射線影響

- 分かり易いパンフレット
- 除染基準に関する理解促進

コミュニケーション

- 効果的な発信
- **コミュニケーション集会**
- 地元住民と学会がコラボして発信（食品に安全基準など）
- **福島の物産品の斡旋販売**
- 福島イベントの開催
- 消費地における放射性物質に関する講演会の開催

学会HPからの福島特産品へのリンク



AESJ 日本原子力学会
Atomic Energy Society of Japan

TOP	理事会	部会・連絡会	専門委員会	標準	倫理	国際活動	男女共同参画	連絡先・事務局
行事予定	支部	フェロー活動						ENGLISH

学会事故調査委員会

福島特別プロジェクト



産地直送!
JA全農のショッピングモール

△△△ 全農福島 △△△

情報メールサービス

Information

- ・ [会長挨拶](#)
- ・ [行動指針](#)
- ・ [倫理規程](#)
- ・ [公開情報](#)
- ・ [組織図](#)
- ・ [役員](#)

原子力FAQ

※ほか、このページの原子力発電所における事故に関して
詳細は厚生労働省のホームページをご覧ください。

ATOMOS

福島第一原子力発電所事故関連情報

- [「日本原子力学会シンポジウム－東京電力福島第一原子力発電所事故後の環境回復の取り組み－」](#)
(1/20福島市) 事前参加申込受付中(締切1/18 12:00)
- [プレスリリース「第6回学会事故調」開催\(2012/12/13\)](#) [UP](#)
- [日本学術会議主催学術フォーラム「巨大災害から生命と国土を護る－30学会からの発信」](#)
(11月29日13:00-18:00)
- [福島特別プロジェクト 情報](#)(2012/10/31)
- [学会事故調情報](#)(2012/9/14)
- [「原子力安全」調査専門委員会情報](#)(2012/9/11)

[過去の記事](#)

新着情報

- 平成25年度フェロー候補推薦募集(1/7締切)
- [「2013年春の年会」](#) 2013年3月26日(火)～28日(木) 会場: [近畿大学東大阪キャンパス](#)
予稿PDF投稿受付期間 2012年12月21日(金)4:00～1月15日(火)4:00
[情報交換会案内](#)、[見学会案内掲載](#) [UP](#)
[展示会出展募集案内掲載](#)([切延長](#))
- [ポジションステートメント 会員意見公募について](#)
- [年会大会参加料改定のお知らせ\(「2012秋」から\)](#)(2012/3/12)
- [標準委員会 新刊発行情報](#)

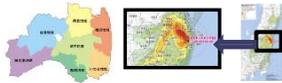
コミュニケーション集会（シンポジウム等） 要検討事項

- 他組織の取り組みを調査し、差異を明確にする



原産、原文振、JAEA、学会員を中心とする個人活動e.t.c.

- 開催回数^{の基準}：地域／汚染度／避難者数



ex.相双地域+福島市、郡山市：1回／四半期、県北、県中、いわき：1回／半期、 県南、会津：1回／年

- 学会リソース（人員／能力／出資者への責任e.t.c.）
- 双方向的かつ改善のできる仕組み作り
 - 実施結果（感想を含む）の共有化
 - 意見徴収方法：アンケート／専用メルアドの作成
 - 自治体およびオピニオンリーダー等地元住民との連携
- その他
 - 地区ごとの担当者の有無
 - 福島県外への対応

平成23年度

安全・安心フォーラム～除染の推進に向けて～

- 第1回（福島市）：平成23年11月27日
 - 参加者数：400名
- 第2回（郡山市）：平成24年1月29日
 - 参加者数：250名
- 第3回（南相馬市）：平成24年2月12日
 - 参加者数：120名
- 第4回（いわき市）：平成24年2月19日
 - 参加者数：120名

Fukushima
Environment
がんばろう
ふくしま!

皆様のご参加をお待ちしております。

第4回 安全・安心 フォーラム

～除染の推進に向けて～

特に小さなお子様をお持ちの貴御様は毎日の空間線量はちろん、
お子様が遊ぶ公園のこと、毎日の食べ物のことなど心配はつきないと思います。
安全・安心フォーラムは、皆様が抱えている不安や解らない事に対してお答えし、
理解を深めていただくためのフォーラムです。

日程
2012年
2月19日(日)
13:00～17:00 (開場12:30)

会場
いわき明星大学
入場無料 どなたでも参加できます

<p>第1部</p> <p>放射線モニタリングと健康影響 放射線モニタリングと健康影響 放射線モニタリングと健康影響 放射線モニタリングと健康影響</p> <p>講師 眞壁 孝子</p>	<p>第2部</p> <p>対話フォーラム (健康影響) 対話フォーラム (除染推進) 測定当校正 体験コーナー</p> <p>コーディネーター 占部 眞正 コーディネーター 大橋 幸子 認定当校正 体験コーナー</p>	<p>放射線モニタリングと健康影響 放射線モニタリングと健康影響 放射線モニタリングと健康影響 放射線モニタリングと健康影響</p> <p>講師 眞壁 孝子</p>
--	---	--

申込方法:裏面の参加申込書を郵送、FAX又はEメールにてお送りください。
●PCサイトの応募フォームからも申込みいただけます。 [福島県除染対策] [検索]

主催/福島県、日本原子力学会 共催/いわき市、財団法人 放射線影響協会 協賛/福島県立環境健康除染対策協議会 TEL.024-521-8317



皆様と不安が悩みを共有し、
様々な疑問に力を尽くします。

第2回 除染の推進に向けた 地域対話フォーラム

お子様のこと、ご家族のこと、仲間のこと、そしてこの福島のこと。
大切なものが私たちにはたくさんあります。
本フォーラムでは、皆様不安や心配を少しでもなくするために、
さまざまな疑問にお答えしていきます。

2012
8/4 土
13:00～16:30
(開場12:30)

会津大学
[大講堂] 総合学舎第一階大講堂
入場無料
どなたでも
参加できます

<p>第1部 講演</p> <p>放射線モニタリングと健康影響について 放射線モニタリングと健康影響について</p> <p>講師 眞壁 孝子</p>	<p>第2部 対話フォーラム</p> <p>健康影響分話集会 除染推進分話集会</p> <p>講師 眞壁 孝子 大橋 幸子</p>
---	--

申込方法:裏面の参加申込書を郵送、FAXまたはEメールにてお送りください。
(申込みをされた方でも入場できませんが、当日の参加は申し込みをされた方を優先させていただきます。)

OPCサイトの応募フォームからも申込みいただけます。 [福島県除染対策] [検索] <http://jvforum.jp>

主催/福島県、日本原子力学会 TEL.024-521-8317

	日程	会場
第1回	平成23年11月27日(日)	パルセイロいざか(福島市)
第2回	平成24年 1月29日(日)	郡山女子大学(郡山市)
第3回	平成24年 2月12日(日)	ロイヤルホテル丸屋(南相馬市)
第4回	平成24年 2月19日(日)	いわき明星大学(いわき市)

平成24年度

除染の推進に向けた地域対話フォーラム

～子どもたちを放射能から守るため～

- 第1回（福島市）：平成24年5月13日
 - 参加者数：213名
- 第2回（会津若松市）：平成24年8月4日
 - 参加者数：50名
- 第3回（白河市）：平成24年10月14日
 - 参加者数：80名
- 第4回（郡山市）：平成24年11月23日
 - 参加者数：60名
- 第5回（いわき市）：平成25年2月17日

誤解が生じている例

- 事故によってはじめて被ばくした。
- 事故によってはじめて内部被ばくしている。
- 1 mSv／年以上は危険である。
- 子どもは少しの放射線でも危険である。
- 放射線を浴びるとガンになる。
- ガンは被ばくによってのみ起きる。
- 内部被ばくは外部被ばくより危険である。
- 食品の規制値は安全基準である。
- チェルノブイリで起きたことが、福島（日本）でも起きる。
- 現在の空間線量がいつまでも続く（あるいは、30年でやっと半分になる）
- マイクロはシーベルトにだけつく単位

どのような状況に置かれているか？

- 避難した／していない
- 避難しているか／していないか
 - 帰宅できる／できない
- 子どもがいる／いない
- 家族が離散している／していない
- 保持している情報の正確性
- 仕事について
 - 現在、職がある／ない
 - 事故影響の度合い

・・・等、状況は**多種多様**である。

良好なコミュニケーションのために

Step:1 背景を理解する
Step:2 伝える



相手

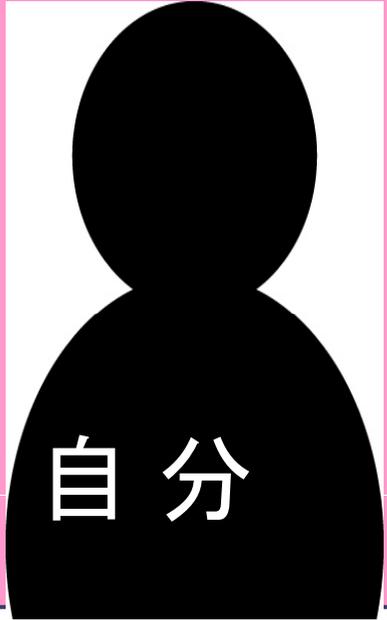
- ・ 状況
- ・ 気持ち
- ・ 知識とその背景



- (・ 目的)
- ・ 科学的データ

私が参考とする放射線防護に関する国際機関
UNSCEAR (国連科学委員会)
ICRP (国際放射線防護委員会)
IAEA (国際原子力機関)
WHO (世界保健機構)

判断は個々！



自分

放射線の人体への影響調査対象

- 原爆：広島・長崎

原爆被爆者の長期追跡調査

寿命調査(1950年～) 120,000人

成人健康調査(1958年～) 20,000人 ※2年に1回受診

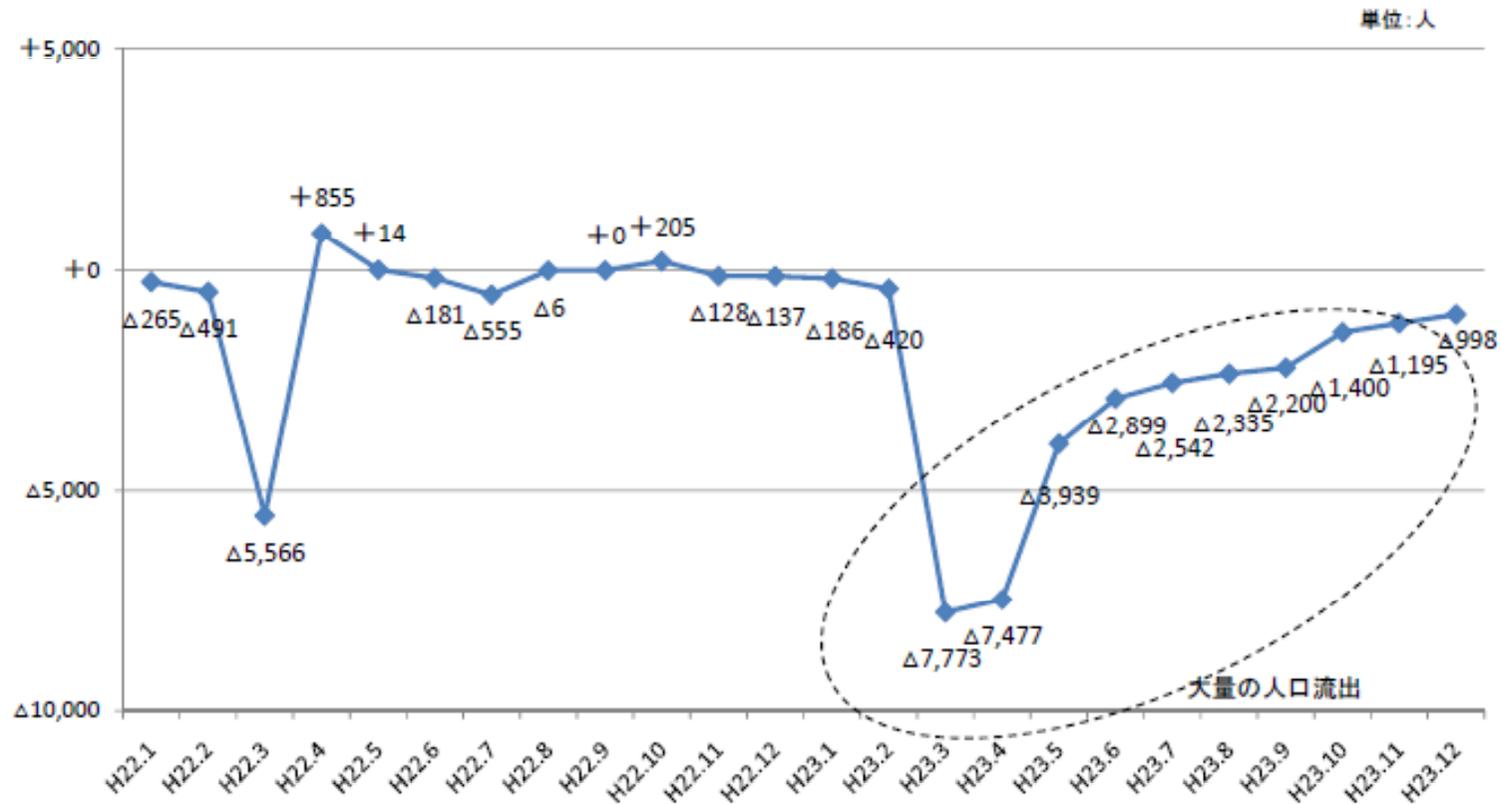
胎内被ばく(1950年～) 3,300人

被爆二世(1946年～) 88,000人

- 原水爆実験：マーシャル群島（ビキニ環礁）、ネバダ（米国）、セミパラチンスク（ソ連）、英国、フランス、中国、インド、パキスタン
- 原爆製造中事故：ハンフォード（米国）、南ウラル（ソ連）
- 原発事故：スリーマイルズ（米国）、チェルノブイリ（ソ連）、JCO（日本・東海村）
- 職業被ばく：ウラニウム鉱山、蛍光塗料業者、原発従事者
- 医療被ばく：診断・治療
- 医療事故：世界各地（IAEA、WHOに報告）
- 高自然放射線地域の住民：ブラジル、中国など

福島県の転出入超過数の推移

○ 原子力災害の影響により、大量の人口流出(住民票の移転)が続いている。



【出典】福島県現住人口調査結果(福島県企画調整部統計分析課)

福島県の転出入超過数の推移

○ 平成23年は、0～14歳及び25～44歳の層を中心に、大量の人口流出（住民票の移転）が発生した。

H22年		H22.1	H22.2	H22.3	H22.4	H22.5	H22.6	H22.7	H22.8	H22.9	H22.10	H22.11	H22.12	単位：人 合計
総数		△265	△491	△5,566	+855	+14	△181	△555	△6		+205	△128	△137	△6,255
0～4歳		△20	△21	△126	+100	+34	+6	△33	+58		+78	+7	△27	+56
5～14歳		+26	△9	△315	+155	+11	+2	△96	+0		+8	+5	△23	△236
15～19歳		△27	△55	△2,095	△321	△70	△36	+12	△26		+14	△21	+5	△2,620
20～24歳		△177	△181	△1,787	+34	△79	△74	△170	△105		+8	△111	+15	△2,627
25～29歳		△65	△56	△315	+161	+41	△28	△116	△42		+31	△43	△37	△469
30～34歳		△36	△46	△256	+107	△41	△25	△98	+3		+0	△11	△30	△433
35～44歳		△11	△65	△408	+293	+39	△61	△126	+57		+52	+7	△43	△266
45～54歳		+5	△35	△251	+179	+31	+9	△2	+51		+9	+5	△22	△21
55～64歳		+34	△1	△34	+134	+42	+7	+65	+15		+33	+50	+9	+354
65歳～		+6	△22	+21	+13	+6	+19	+9	△17		△28	△16	+16	+7

H23年		H23.1	H23.2	H23.3	H23.4	H23.5	H23.6	H23.7	H23.8	H23.9	H23.10	H23.11	H23.12	合計
総数		△186	△420	△7,773	△7,477	△3,939	△2,899	△2,542	△2,335	△2,200	△1,400	△1,195	△998	△33,364
0～4歳		+10	△27	△416	△713	△600	△554	△515	△493	△470	△322	△203	△205	△4,508
5～14歳		+21	△37	△1,056	△1,069	△472	△358	△562	△389	△314	△239	△163	△207	△4,845
15～19歳		△32	△41	△1,602	△1,197	△121	△130	△36	△57	△23	△14	△6	△9	△3,268
20～24歳		△188	△227	△1,903	△882	△480	△274	△143	△176	△210	△89	△125	△88	△4,785
25～29歳		+20	△8	△405	△714	△526	△428	△260	△295	△285	△214	△206	△114	△3,435
30～34歳		+29	+7	△432	△763	△516	△396	△385	△359	△317	△231	△192	△104	△3,659
35～44歳		+16	△72	△783	△940	△667	△506	△519	△441	△449	△261	△188	△213	△5,023
45～54歳		△35	△19	△394	△376	△235	△119	△90	△66	△76	△4	△44	△50	△1,508
55～64歳		+3	+12	△250	△244	△102	△18	△11	△13	△28	△1	△28	△8	△688
65歳～		△30	△8	△532	△579	△220	△118	△21	△46	△28	△25	△40	+0	△1,645

【出典】福島県現住人口調査結果（福島県企画調整部統計分析課）

福島県の人口流出問題だけを見ても . . .

流出者



- 慣れない土地での生活。
- 慣れない家での生活。
- 世代分離。
- 家族分離（単身赴任）。
- 落ち着くまでの複数の引っ越し。
- “いる” 人のいない生活。
= 活気のない町
 - 友だちのいない／行先のいない放課後。
 - 生活必需品や適切な医療等入手の困難性。



良好な関係を築くために前提となるスキル

- 背景（相手）を理解する：聴くスキル
 - 相手に対して興味がある
- （自己を）伝える：話すスキル
 - 明確に話ができる
 - 愛嬌がある
 - 親しみやすい
 - 的確なたとえ話を用いることができる
- 自己と他者の立場から、問題や状況を適切に把握できるスキル：解釈するスキル
 - 空気が読める
 - 協調性がある
 - 頭の回転が速い

まとめ（私が大切にしていること）

- 相手に対して
 - できるだけ知ること。知ろうとすること。
 - 話しやすい雰囲気を作ること。
 - 相手の幸せを望むこと（よりよく生きられることを望み、それについて考えること。）
- 話し方・内容
 - 自分の言葉で話すこと。
 - データに基づいて話すこと。
 - 具体性をもつこと。
 - 複数の見解がある場合は、複数を紹介すること。
 - 想像力をもつこと（今後、相手が疑問をもつであろうことにも応えること）と。
- 次回へ向けて
 - うまく応えられなかった場合、疑問が生じた場合はすぐに調べること。

コミュニケーションには . . .

- 残念ながらこれをすればよい！という魔法はない。
- ただし、これをしてはダメはある。まず重要なのは「聞く」こと。理解すること。
- 専門家は、「データ」に基づいて話す。批判を恐れてはいけない（ただし適切なタイミングや表現等には気を付ける）。→信頼が構築できると、データの読み取り方等、幅を広げていくことも可能。
- コミュニケーションが成功すると、「一緒」にできる。相手を巻き込める！



福島の現状を変えることができる！



から



ふくしまから
はじめよう。



Future From Fukushima.

私たち原子力学会会員は
一人一人が何ができるか／どのように行動すべきかを
科学的な知見を踏まえながら、より広い視野で
考え、行動する必要があるのではないか？